

## インターバンクの声（2017年3月22日）

昨日、連休が明けた東京市場のドル円は、9時を回って一旦112円20銭台まで円買いが進んだが、その後は夕方までゆっくりと112円台後半まで円が売り戻された。足元ではドルの下値が堅いとまでは言い切れず、依然としてドル売りが進む可能性は残しているものの、レンジとしては112円～115円あたりを予想する声が多かった。しかし、ニューヨーク市場の午前中にあっさり112円を割り込み、結局111円55銭まで下げている。

先週の米連邦公開市場委員会(FOMC)以降、市場がすっかり利上げのペースが緩やかになるとの見方になっている上に、前日終値から上昇して始まっていたNYダウが大幅下落に転じ、米長期金利も低下、原油価格も47ドル台に下落する展開とあってはドル売りになるのも致し方ないだろう。

トランプ大統領が掲げる大規模な減税やインフラ投資の実施が遅れるとの懸念が強まっているのが響いたようだ。株、金利、原油が全て下げている中、簡単に目をつむってドル買いとは行きにくい。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。